

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成21年 3月28日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 永の郷 (熊本県)
評価調査員の氏名	氏名 淵上 一光 氏名 下田 政信
事業所側対応者	職名 管理者、ケアマネージャー 氏名 榮 倫之、野田朱美 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4372300907
法人名	医療法人社団 博文会
事業所名	グループホーム 永の郷
所在地	熊本県下益城郡城南町永1209 (電話) 0964-28-7117
評価機関名	特定非営利活動法人PRENET21
所在地	熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成21年 3月28日

【情報提供票より】(平成20年12月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要(9月末日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 75 歳	最高 89 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小林病院、大隈医院、かわせ歯科医院 他
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市から緑川を渡ると、そこは大変のどかな田園風景が広がるすぐお隣の町、城南町にこの事業所はあります。ゆったりとした敷地の中に併設されたグラウンドは、地域の方々に開放され、天気の良い日には朝早くから利用者を交えた交流の場として活用されているそうです。また、一步事業所内にお邪魔してまず感じたものは、利用者の作品(習字や塗り絵)や利用者との共同製作による飾り付けが醸し出す和やか空間でした。そこでは、思い思いに過ごされる利用者の落ち着いた表情がありました。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題として、職員を育てる取り組み、家族の不安を軽減しサービスの安定向上を目指す取り組み、即ち職員の異動を最小限に抑える努力については、この一年間でかなり実績を見いだすに至りました。今後も、ますますのサービス向上のためにも頑張りたいと思います。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で行っており、サービスを振り返るよい機会として捉えている。また、毎日の慌しさの中で、惰性に流されることもあり、初心にかえり自己を見つ直す機会とも捉えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	メンバーは大変充実しており、いろいろな分野の方が参加しておられます。メンバーの方々に講師になってもらい、タイムリーな話題や専門分野の話しを計画すれば、会議はより活性化できるものと思います。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見等の受付窓口は、管理者及び第三者苦情処理機関となっている。事業所としては、意見等の言い易い雰囲気づくりに留意している。意見等があれば、サービス向上の良い機会と捉え、速やかな改善に取り組む体制を整えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	年3回の法人主催のグラウンドゴルフ大会や運営推進会議、また幼稚園児や小学校生の慰問等を通じて、より地域に開かれたグループホーム“永の郷”を目指しています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして利用者1人ひとりが地域の中で、自立した幸せな日常生活を送れるよう、見守り、支えていくことを事業所独自の理念としてつくり上げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に、全職員で理念の唱和を行なっている。理念の共有と初心に戻っての実践を目標としている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当法人が所有するグラウンドを地域の方々に開放しており、そこでは法人主催のグラウンドゴルフ大会が、年3回行なわれている。利用者や職員も参加し、大いに交流を深めている。また幼稚園児や小学校の慰問も、継続的に行なわれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員全員で行なっている。サービスを振り返る機会として捉えている。外部評価については、掲示板に貼りだし、いつでも誰でも見られるようにしており、改善すべき点は、速やかな取り組みを心掛けている。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2～3ヶ月に1回の割合で行なわれている。参加メンバーは、区長、警察官、消防署員、老人会会長、町職員、民生委員、地域包括職員等々、大変充実している。内容としては、認知症の正しい理解やグループホームの社会的必要性等を理解して貰うところから始めている。		今後は、タイムリーな話題や専門的なことを議題として取り上げ、メンバーに講師をお願いする方法もあると思います。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所は、町の担当者ともいい関係を築いている。運営推進会議以外にも行き来する機会を作っており、町や地域包括が主催する研修会には出来るだけ多くの職員を参加させ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、状態報告書として暮らしぶりや健康状態を写真と共に、各家庭に郵送している。金銭管理については、手渡して報告するようにしている。		職員の異動については、大変安定した状況にあります。移動があった場合は、報告をするようにしてください。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情が言い易い雰囲気作りに留意している。意見箱や第三者苦情処理機関も掲示しており、意見や不満をサービス向上のいい機会と捉え、取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、異動も少なくなっており、大変良いことだと思います。異動が発生すれば、馴染みの職員と他の職員が力を合わせ、利用者へのダメージ軽減の努力を行うようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に一週間掛けて初期研修を行なっている。研修の内容としては、一週間の記録、一日の記録を付けさせ、サービスの流れを管理者と話し合いながらの実務研修を行なっている。また、外部については極力参加するようにしており、参加した職員が必ず復講し、全職員が理解できるような体制を取っている。		職員のレベルアップは取りも直さず、事業所そのもののサービスの質の向上につながると思います。ぜひ、職員の育成計画を立て、スキルアップを目指してください。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇城ブロックでの連絡協議会が、2ヶ月に1回行なわれている。会員として常に参加している。また年に4回は勉強会も行なわれ、自分を再確認するいい機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>まず、本人や家族に事業所を見学していただき、所内の雰囲気を味わってもらうようにしている。やむを得ずすぐ利用となった場合には、それまで関わっていた関係者に見てもらおうなどの特断の配慮を行なうようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>伝統的な行事面などでは、利用者から学ぶことがたくさんある。また、たかなをつけたり、切り干し大根を作ったり、さらには女性は味噌汁(しる)と言わず、味噌お汁(つゆ)と言ったほうがいいなど、お互い敬意をはらい、学びながら支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のふれあいの中で極力把握出来るように努めている。例えば墓参りをしたいなど意思表示を確認できれば、望みを叶えてあげるように支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日頃の生活状況をベースに本人や家族の意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。その際、モニタリングや職員間での意見交換も行ない、より精度の高いものになる様心掛けている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ひとりの利用者に2人の担当者を決め、毎月モニタリングを行なっている。3ヶ月、6ヶ月で目標の見直しを行なっているが、それ以前に状況が変化した場合には、現状に即した新たな介護計画を作成するようにしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者にとって、事業所は生活の場であり、その生活が安心して落ち着いたものになる為の支援、例えば自宅が気になる、見てみたいとか、その時々々に応じた外出支援が多機能と考えており、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診や通院の送り迎えは、家族が行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、看取りやターミナルケアについてのガイドラインは決まっていないが、将来的には、ターミナルに近づけていこうと思っている。また、緊急の場合の連絡先は、管理者に一本化している。		今後の大きな課題であり、他事業所の取り組み、また業界の動向等にも注意を払い、事業所としての話し合いを持ってください。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に、利用者への接し方、名前の呼び方等々利用者の誇りを傷つけることのない様、職員の意識の徹底を図っている。また個人記録・情報の取扱いについては、人目の付かない場所で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の体調に配慮しながら支援する様に心掛けています。朝、起きるのが遅くなった場合などは、無理をせず、食事をずらす様な支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物に行ったり、配膳や下膳、また食器洗い、食器拭き等の準備や後片付けを一緒に行なうことによって、食事がより楽しみなものになる様な支援を心掛けている。また、利用者の嗜好も極力取り入れた食事になる様、工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には月曜から土曜までの週6日間、いつでも入浴できるようにしている。ただし、夜間9時以降は実施していない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	決して無理強いせず、気分や体調に合わせ、得意分野で力を発揮してもらうようにしている。例えば、日めくりカレンダー、牛乳やはし配り、またポップ掛け等々、常に一緒に支援する様にしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候がいい時期や天候に合わせて、また利用者の体調も加味しながら、散歩やドライブの支援を頻繁に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間、玄関を施錠することはない。夜間のみ防犯の為、玄関の施錠を実施している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災避難訓練を実施している。また近くに消防署員の方がおられ、いろいろと指導を仰いでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取については、利用者ごとにチェック表を作成し、常に状況が一目で分かるように管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品(習字やぬり絵)等を掲示したり、また利用者と共に作成した色紙の壁飾り等を飾りつけたりして、明るく和やかな共用空間づくりに努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、家具を新調されるご家族もあるようですが、居室には、家族の写真や人形、使い慣れた日用品等が持ち込まれおり、居心地良く過ごせる工夫がうかがえます。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 永の郷
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	城南町
記入者名 (管理者)	榮 倫之
記入日	平成 21 年 3 月 15 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	開設時から理念の中に地域密着を盛り込んであり、それに基づいてご利用者、ご家族、職員が家族の一員として生活をともにしていく理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	毎朝の朝礼時に参加者全員で、理念復唱し、共有をはかり実践に向けとりにくんでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	玄関を入ると正面に掲げてあり、来訪者のすぐ目に付くところに掲示されている。家族会などでも折にふれ説明している。また、地域住民との交流会などでも、リーフレットを説明している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	毎朝当グラウンドで、地域の方々のグランドゴルフがおこなわれていて、一部のご利用者も参加されている。また、散歩の際も気軽に挨拶を交わしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	夏祭りは、地元の老人会と共催の形をとり実施している。そのほかに、小学校、保育園から年に5.6回の慰問等は継続的におこなわれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は事業所での実践内容を踏まえて、地域の様々な研修会にも参加しながら認知症ケアの啓発に努めている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行うようにしている。外部評価は、ミーティングで報告し改善すべき点は検討し、実践につなげたい。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の会議での検討事項等の経過報告をし、今後の取り組みについても出席者からの提案議題で、実践可能なことは積極的に実践していけるようなシステム作りをしたい。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や地域包括が主催する研修会にはできるだけ多くの職員が参加して、研鑽を重ねていきたい。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員全員が理解しているとは思えない。今後の検討課題として前向きに考えたい。		まず、職場内の勉強会のテーマに揚げ、職員の意識を高めることから始めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会でも最優先課題として、運営者、管理者、職員が一丸となり、常に取り組んでいる。グループホームの理念にも唱っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	時間を十分にとり、ご家族が納得していただけるまで、説明している。特に利用料金や医療連携体制などについては、詳しい説明を行っている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	利用者の動向から常に細かな変化に気をつけて職員相互で連携し、常に利用者の立場にたった意見を最優先に考え、実践している。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月、状態報告書として、ご利用者各自の状況を写真とともに各語家族へ送付している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	ご家族からの不満や苦情が言いやすい雰囲気作りに留意している。出された意見等は緊急ミーティングで話し合いすぐに反映させている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	各職員とはできるだけコミュニケーションをとる機会を設けているつもりだが、日々の業務にも、若手の職員の意見や考えを積極的に採用するようにしている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	ご利用者にできるかぎり自由な生活をしていただきたいので、ご利用者の状態やペースに合わせられるような体制づくりを心掛けている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	基本的には顔なじみの職員によるケアが長期間続けられるように異動も最小限に抑え、利用者へのダメージを防いでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外の研修に多くの職員に参加してもらいたいとは思っているが、現況ではなかなか難しいところもあるので、参加した職員が必ず研修復講し、職員に理解してもらうように努めている。		業務に差し支えない研修にはできるだけ多くの職員に参加するような働きかけをしている。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡市内に連絡会があり、会員として常に参加している。勉強会の活発に行われ、職員の交流も年に数回実施されている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減には気をつけている。運営者の協力もあり休憩スペースの確保や公休の増加に努めた。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻繁に現場にきて職員とコミュニケーションを図っており、勤務状況を把握したうえで、資格取得に向けてもバックアップに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、本人やご家族の思い、状況を確認し、できるかぎり本人の意向に沿った生活ができるように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を重ねることで信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、本人やご家族に事業所を見学していただく。やむを得ずすぐに利用になった場合はそれまで関わっていただいた関係者に見てもらうなどして安心感をもってもらうようにしている。		
いた				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホーム理念の実践として、本人の思いや痛みを理解することに努め、生活の中で分かち合い共に支えあえる関係づくりに留意している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	理念でも唱ってういるように、ご利用者用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、家族と職員が一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の本人への思い、本人の家族への思いを受け止めて、両者の思いが結びつくような働きかけに心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院や病院などなじみの場所との関係が途切れないように、家族とも連携を図りながら支援を継続している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について常に職員が情報を共有できるようにしている。また、心身の状態や気分・感情、季節等でも変化することもあるので、注意深く見守っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へうつられた方には、時折様子伺いに訪問したりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のふれあいの中で把握できるように努力している。言葉や表情などから真意を推し測ったり確認するようにしている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とのコミュニケーションはもとより訪問者(家族・知人)などから少しずつ把握することに努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご利用者ひとりひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が情報を確認し、ご家族やご本人の要望取り入れつつ期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には終了前であっても検討見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事量・水分量・排泄等身体的状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも職員が確認できるようになっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の気分転換を図るという意味においても外出支援等は積極的に実践している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご利用者が安心して地域で暮らせるように警察・民生委員・消防団と意見交換する機会をもうけている。		ボランティアの受け入れ体制づくりを早急に整えたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他の事業所との情報交換は行なっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化されつつあり、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を徐々にではあるが築いている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。また、受診や通院はご本人やご家族の希望に応じて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	県認定の認知症専門医に開設当初から助言や指示を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がただ今不在の為、かかりつけ医や協力医にご利用者の細かな変化は、介護職員が記録をもとに連携を図っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結びついている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では、看取り、ターミナルケアについてのガイドラインが決まっていない。		今後の大きな課題のひとつである為、ご家族、運営者、現場サイドの話し合いをもっていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今の段階では、日々のケアを大切にして、今を穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでも、これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心かけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティングの時に、職員の意識を図るとともに、利用者誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>ご利用者に合わせて声かけをし、意思表示が困難な方は表情を読み取ったりする努力をして押し付けの介護にならないよう心掛けている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ひとりひとりの体調に配慮しながらその時の本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援を行っている。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人ご家族の希望に応じた理・美容院の利用を実施している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ひとりひとりの食事量の把握、嗜好等に配慮しながら、準備、片付けを実施している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご利用者各自の嗜好を理解して、本人の様子を見ながら楽しめるよう支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ひとりひとりの排泄パターンを把握して、声掛け、誘導を実施している、オムツゼロ。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には月曜から土曜までの週6日間の本人の希望時間に実施している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。ご利用者ひとりひとり体調や表情を考慮してゆっくり休めるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	決して無理強いせず気分や体調に合わせ、得意分野で力を発揮してもらおう。常に一緒に実践するように心掛けている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方はほとんどおられないので、一緒に買い物に行き、ご利用者に好きなものを選んでいただき、支払いは職員が行うのが実情である。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、散歩に行く方が約半数、他の方々はドライブ支援等を頻回に実施している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年一回の家族旅行、各地のイベントへの参加は積極的に実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの手紙や電話は希望に応じて随時対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が実家に帰ってくるような気軽で来やすい雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの時に、日々の申し送りをし、その日のケアを振り返り自覚してない拘束が行われていないかを点検している。		拘束、抑制の勉強会は日常継続的に実施していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外に出て行かれようとする気配を見落とさないように、職員間の見守り、連携プレーを心掛けている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者と同じ空間で事務作業を行いながら、さりげなく皆様の様子を把握するよう努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご利用者の状況を照らしながら、使用される時に注意が必要なもの等に分類している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の自己判断であいまいにせず、日常的にひやりはっと等を書くことをご利用者の安全にはひときは注意している。そのことで職員も共通認識をもっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が定期的に施設内勉強会で、緊急時の対応についてマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の火災避難訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	様々な役割活動や外出により、抑制感のない暮らしがご利用者の表情を明るくし、行動の障害を少なくしている事をご家族に見てもらおうようにしている。		施設内においてリスクマネジメント勉強会も今年度中に開くつもりでいる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており、少しでも食欲や顔色、様子等の変化が見られた時は、バイタルチェックを行い、変化時の記録をつけている。状況により病院受診につなげている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成処方箋のコピーをケース毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	本人確認やわからない方々は排泄チェック表に記録して、把握している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取状況は、チェック表に記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に関しては、毎年施設内勉強会を実施し、マニュアルも作成して、啓発に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	家庭と同じ観点から、近隣のスーパー等に頻繁に買い物に行き、新鮮な食材の購入につとめている。また、季節の野菜は近所の農家の方々がよく持参されおおいに助かっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口横には花壇などを作り明るい雰囲気を出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置は利用者と一緒に考え、ご利用者が自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるような工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、ベランダに椅子を置き、一人で過ごしたり、仲のよい方々でくつろげるスペース作りにきを配っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ、ご利用者の居心地のよさに配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者の居室、リビング、トイレには温度計をセットしており、24時間定時の温度チェックをし、表に記入している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者の状態に合わせて、手摺りや浴室、トイレ、廊下などの居住空間を再度見直ししながら、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	新たに混乱や失敗が生じた場合は、その都度、職員で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に花を植えたり、畑ではネギ・大根等を作り、食材としても使用している。また、玄関前や畑のコーナーにウッドデッキがありご利用者がいつでも畑や庭に出られるようにしてある。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)